

つ え はっしょうまち い せき
津江・八升町遺跡
(4次調査)

福岡県八女市津江字八升町所在遺跡の
発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第110集

2015

八女市教育委員会

つ え はっしょうまち い せき
津江・八升町遺跡
(4次調査)

福岡県八女市津江字八升町所在遺跡の
発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第110集

2015

八女市教育委員会

序

古来より、自然豊かな地であった八女地域には、先人達の足跡を示す多くの文化財が各所に残されています。

中でも星野川と矢部川との合流地点の右岸に位置する津江地区は、弥生時代の遺跡が数多く埋蔵されている地域としてよく知られています。さて、今回調査を行った津江地区は、以前川崎病院新病棟建設での発掘調査において、紀元前二世紀ごろに稲作がすでに定着していたことを示す稲穂の跡がついた圧痕土器や、畑作物の栽培がおこなわれていた証となる豆類の圧痕土器も同時に見つかり、八女地区での農業の始まりと展開を考える上で大変貴重な発見があった地域です。

今回は旧矢部線沿線の工場建設にともなう発掘調査の報告書です。

発掘調査の結果、溝状遺構の弥生時代終末期の土器が出土する土層から鍛造の板状鉄斧が出土し、貴重な発見となりました。

この報告書が当該遺跡のみならず、市内に点在する文化遺産を深く理解する一助となり、より文化財愛護の心を育むことに寄与出来るのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解を頂きました中村製紙所の皆様、また、発掘調査に従事していただいた作業員の方々、そして調査報告書などの作成に関わった多くの方々に対し深く御礼を申し上げるとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成27年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

1. 本書は、八女市津江字八升町遺跡における発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
3. 本書に使用した現地写真は、永田が撮影を行った。
4. 本書使用の方位については、すべて座標北を基準としている。
5. 本書の執筆、及び編集については主として永田が行った。
6. 本書に関する調査記録、及び出土遺物は八女市の岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

1	調査の経緯	1
(1)	調査に至る経緯	1
(2)	調査体制	1
2	遺跡の立地と歴史的環境	2
3	調査の内容	6
(1)	発掘調査の概要	6
(2)	遺構と遺物	7
4	総括	21

挿図目次

第1図	津江・八升町遺跡4次調査	周辺遺跡分布図 [1/12,500]
第2図	津江・八升町遺跡4次調査	遺跡位置図 [1/2,500]
第3図	津江・八升町遺跡4次調査	遺構配置図 [1/100]
第4図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) [1/40]
第5図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 断面図 [1/20]
第6図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 断面図 [1/20]
第7図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第8図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第9図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第10図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第11図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第12図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第13図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第14図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第15図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第16図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第17図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 出土石製品実測図 [1/4]
第18図	津江・八升町遺跡4次調査	1号掘立柱建物 (SB-01) [1/60]
第19図	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構 (SD-01) 鍛造板状鉄斧実測図 [1/1]
第20図	津江・八升町遺跡4次調査	5号溝状遺構 (SD-05) 出土遺物実測図 [1/4]
第21図	津江・八升町遺跡4次調査	1号掘立柱建物 (SB-01) 出土遺物実測図 [1/4]
第22図	津江・八升町遺跡4次調査	1号櫓列跡実測図 [1/20]
第23図	津江・八升町遺跡4次調査	4・8・10号不明遺構 (SX-04・08・10) 出土遺物実測図 [1/4]
第24図	津江・八升町遺跡4次調査	14号不明遺構 (SX-14) 出土遺物実測図 [1/4]
第25図	津江・八升町遺跡4次調査	15号不明遺構 (SX-15) 出土遺物実測図 [1/4]
第26図	津江・八升町遺跡4次調査	16号不明遺構 (SX-16) 出土遺物実測図 [1/4]

図版目次

図版1-1	津江・八升町遺跡4次調査	調査区北東から
図版1-2～図版2-2	津江・八升町遺跡4次調査	1号溝状遺構南から
図版2-3	津江・八升町遺跡4次調査	板状鉄斧出土状況北から
図版3-1	津江・八升町遺跡4次調査	櫓列跡
図版4～13	津江・八升町遺跡4次調査	出土遺物

表目次

表1	津江・八升町遺跡4次調査	出土遺物観察表
----	--------------	---------

1 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

株式会社中村製紙所の所有地である八女市津江309番地について工場建設が計画され、平成25年11月18日付けの文書で埋蔵文化財の有無についての照会が八女市教育委員会に出された。工場建設で機械重量に耐えるため基礎工事として柱状改良を行うことや、当該地が津江遺跡群の包蔵地内であること、また旧国鉄矢部線跡を隔てた北側では津江・八升町遺跡の調査が行われていることから、埋蔵文化財に与える影響が危惧されたため、11月22日に確認調査を行った。計画地はコンクリートが敷設されていたため、試掘坑は1本しか設定できなかったものの、以前の建物の基礎によって掘削が行われていない箇所について埋蔵文化財の存在が確認できた。その結果をもとに協議を行った結果、建物建設部分約500㎡について調査を行い、記録保存の措置を講ずることとなった。平成25年12月20日から重機によるコンクリート撤去作業、同26年1月14日から作業員による遺構検出作業を行った。1号溝状遺構からの遺物出土が予想以上であったので、25年度中に土器洗い等整理事業の一部も併行して行った。

(2) 調査体制

【平成25年度】（発掘調査）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西島 民生
文化課長	井上 秀樹
同 参事補佐	北島 一雄
同 文化財係 係長	大塚 恵治
同 " 係員	永田 寧
同 " " 渡部	真弓

【平成26年度】（整理事業）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西島 民生
文化課長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔
同 参事補佐	北島 一雄
同 係長	大塚 恵治
同 係員	永田 寧
同 " 檀	佳克
同 " 渡部	真弓



重機による確認調査の様子

2 遺跡の立地と歴史的環境

津江・八升町遺跡4次調査について

津江・八升町遺跡は八女市津江字八升町に所在し、旧矢部川が水縄山地の隆起活動により北部から南部方向に移動した折に形成したと考えられる堆積砂質土を基盤としている。

当該遺跡周辺は、以前より土器や石器の表面採集が行われており、古くから遺跡が地下に包蔵されている事が予測されていた。

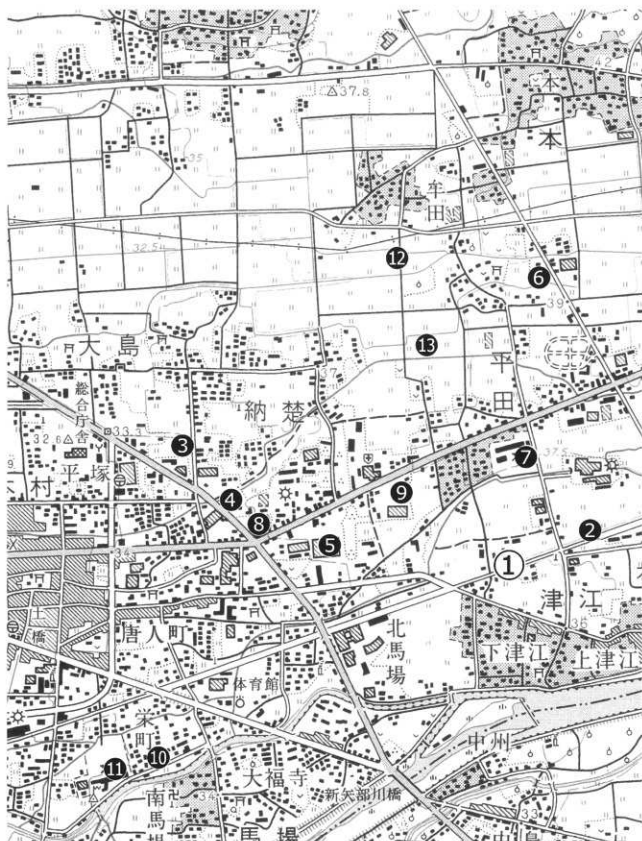
近年における発掘調査事例を紐解くと、上妻小学校校庭遺跡において弥生時代中・後期の甕棺墓群が調査され、平成19年度から同21年度にかけて実施した圃場整備に係る調査により弥生時代後期から古墳時代初頭頃の所産と考えられる多量の土器群と住居跡が見つかっており、周辺地域には弥生時代終末期頃の大規模な集落が存在しているものと推定できる。

また、当該遺跡の東方約690mには白石遺跡があり、堆積した砂質土の中から鉄原料を溶解させる折に排出される鉄滓が出土しており、周辺地域の一部では古くから鉄製品の製作・加工が実施されていた可能性を示唆している。今回、1号溝状遺構(SD-01)Ⅱ-1層から出土した完形品の板状鉄斧の出土は、当該地周辺の弥生時代終末期前後の先進性と古墳時代に向けた地域社会の在り方の変化が見て取れ、重要な調査事例となった。

以下、当該遺跡を内包した古代八女の概要を記す。

八女市西部における遺跡の初現期は縄文時代前期まで遡ることができ、国武遺跡群や平田遺跡群等で押型文土器が数多く出土している。後期に入ると南西部のアモメ遺跡において小規模な円形の竪穴住居や、少数ながら墳墓がみられるようになり、移動狩猟採集生活から定住化の兆しがみられるようになる。弥生時代に入ると、立野・大坪遺跡や亀ノ甲遺跡、宿町遺跡等の前期後半の環濠遺跡が出現する。中期に入ると、前半から中頃にかけては竪穴住居が散発的にしか存在しなくなり、環濠のような大規模な遺構は全く確認できないようになる。ところが中期後半ごろになると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセットになって出現するなど、再び大規模な大集落が形成される。また、前述した立野・大坪遺跡などから鉄器が出土するようになる。後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区に所在する野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡では鉄器や砥石が出土している。アモメ遺跡では非常に密集度の高い貯蔵穴群が発見されており、近くに墳墓群も存在し、近接した区域に大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地区内の茶ノ木ノ本遺跡の甕棺墓群からは方格規矩鏡、深桶式銅剣、鉄戈が出土しており、在地有力者の台頭とともに、大規模集落同士の統合が進んでいることを連想させる。

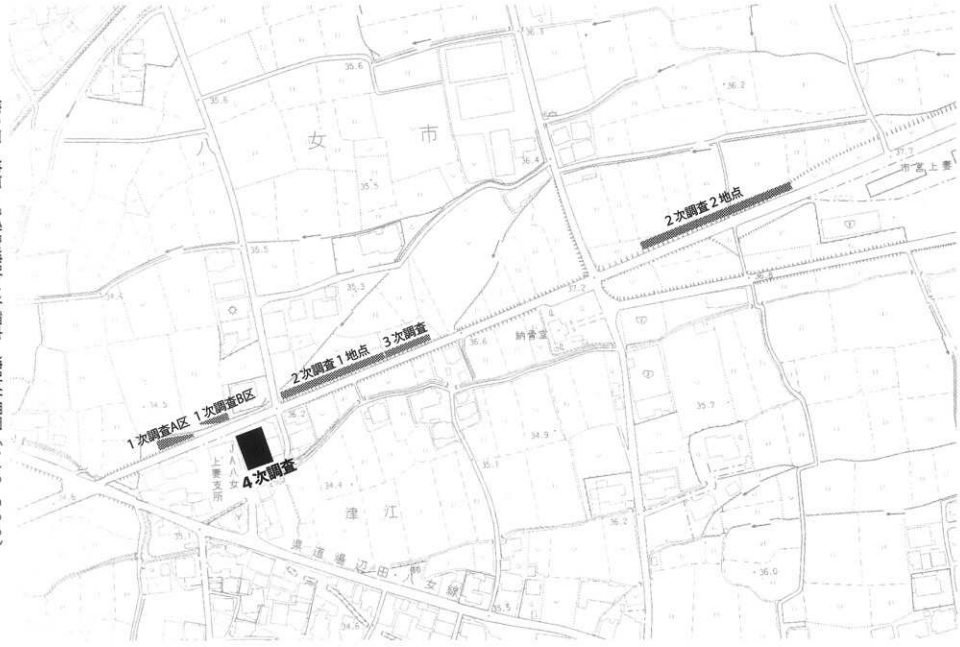
これと時をほぼ同じくして室岡台地上に所在する亀ノ甲・山ノ上周辺においても土地利用が再開、地形を人為的に改作し前代とは比較にならないほどの大環濠集落を形成する。西山ノ上遺跡においては原始鍛冶の痕跡とともに多量の鉄片、大陸由来の鋳造鉄斧片などの当時最先端の鉄素材が多量に出土するなど、一気に弥生時代における全盛期を迎える。しかし西山ノ上遺跡がみせるように後期後半～末頃にかけて鉄素材を放棄したり、居住域を大幅に縮小する傾向がみられる。原因は定かではないが、瀬戸内地区で多く見られる高地性集落の発生時期と重なるところもあり、注意すべき点と思われる。

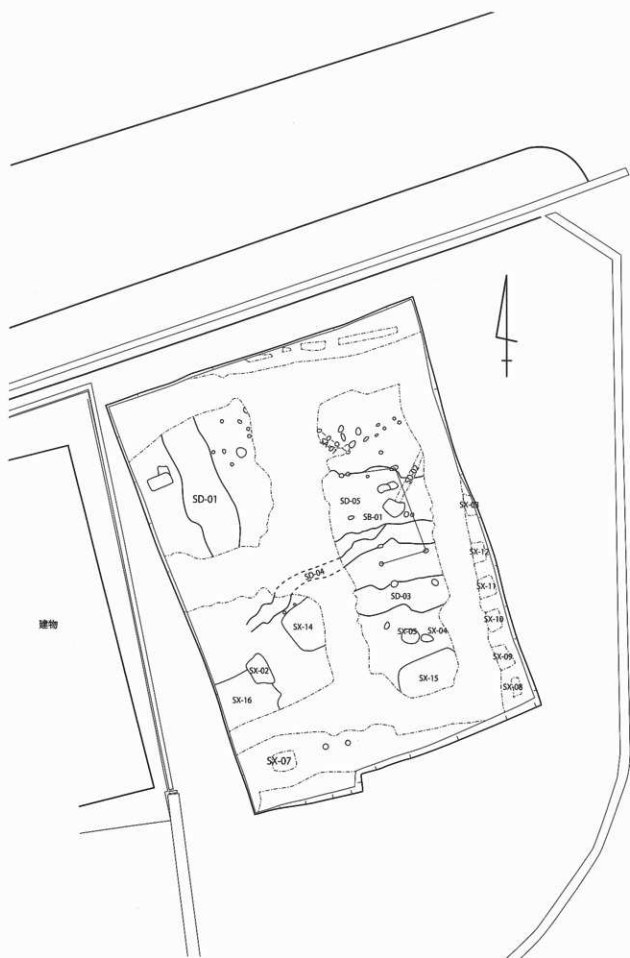


1. 津江・八升町遺跡(1・2次調査1地点・3・4次調査) 2. 津江・八升町遺跡2次調査2地点
3. 万上田遺跡 4. 錦遺跡 5. 熊野遺跡 6. 口ノ坪遺跡 7. 後ノ江遺跡
8. 赤氏遺跡 9. 高島遺跡(5次調査) 10. 洲ノ上遺跡 11. 南中学校校庭遺跡
12. 西原遺跡 13. 平田・六反田遺跡

第1図 津江・八升町遺跡4次調査 周辺遺跡分布図〔1/12, 500〕

第2図 津江・八升町遺跡4次調査 遺跡位置図 [1/2, 5.00]



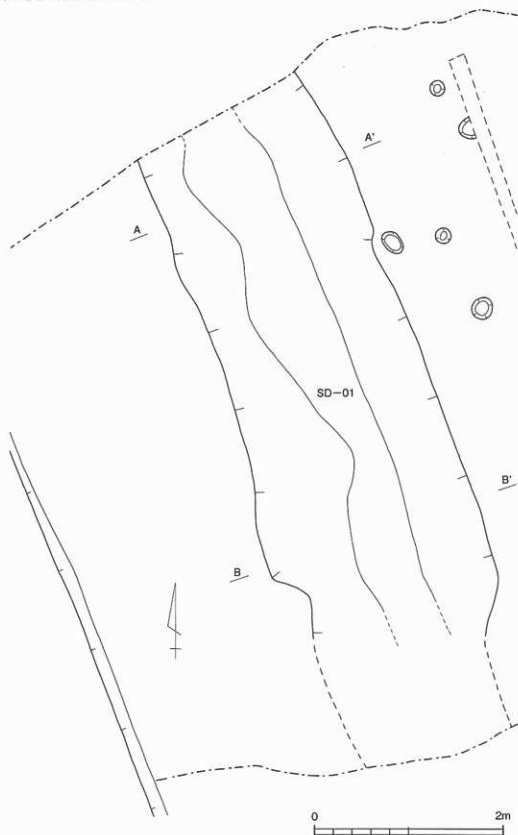


第3図 津江・八升町遺跡4次調査 遺構配置図 [1/100]

3 調査の内容

(1) 発掘調査の概要

今回の調査区は福岡八女農協上妻支所の倉庫跡となっていた箇所ので基礎となっていた攪乱部分以外で検出作業を行った。



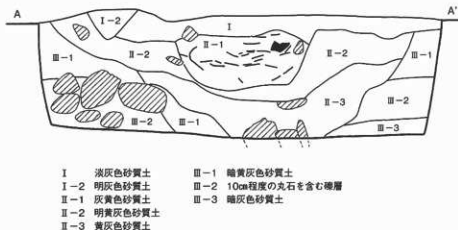
第4図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) [1/40]

(2) 遺構と遺物

1号溝状遺構 (SD-01) (第4図～6図)

調査区北西側で南北に走る溝状遺構で幅約2m、南端、北端においてはこの調査以前に建っていた建物の基礎に切られている。しかしながら、その延長となる部分を基礎の反対側で検出することは出来ず、南側に向かうにつれて深さが減少する傾向にあるので、そのまま消失するか、あるいは西側に方向を変化させている可能性もある。

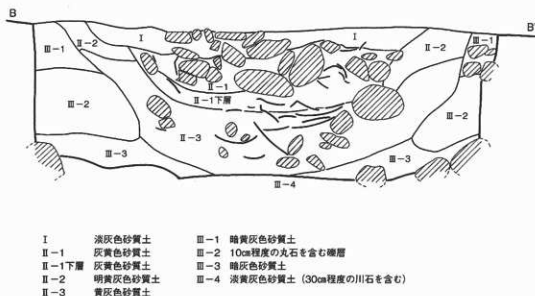
H=34.70m



0 1m

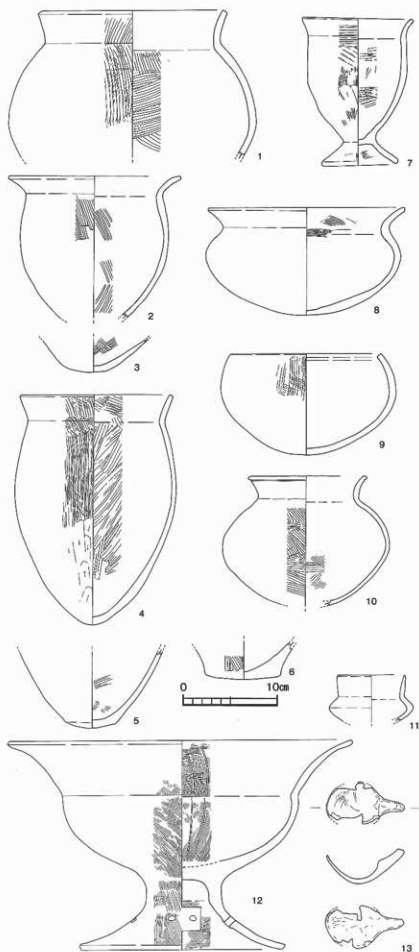
第5図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) 断面図 [1/20]

H=34.70m



0 1m

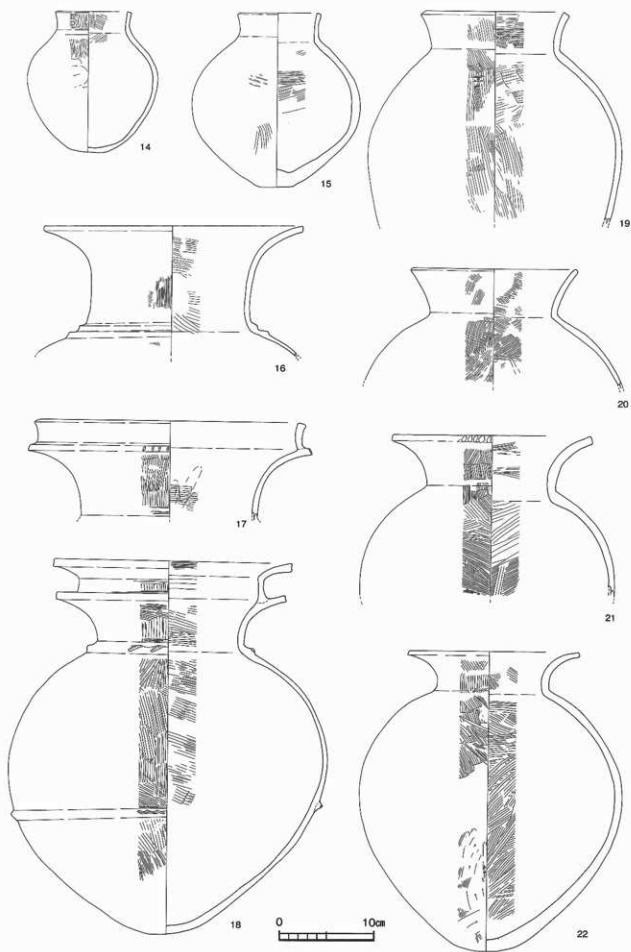
第6図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) 断面図 [1/20]



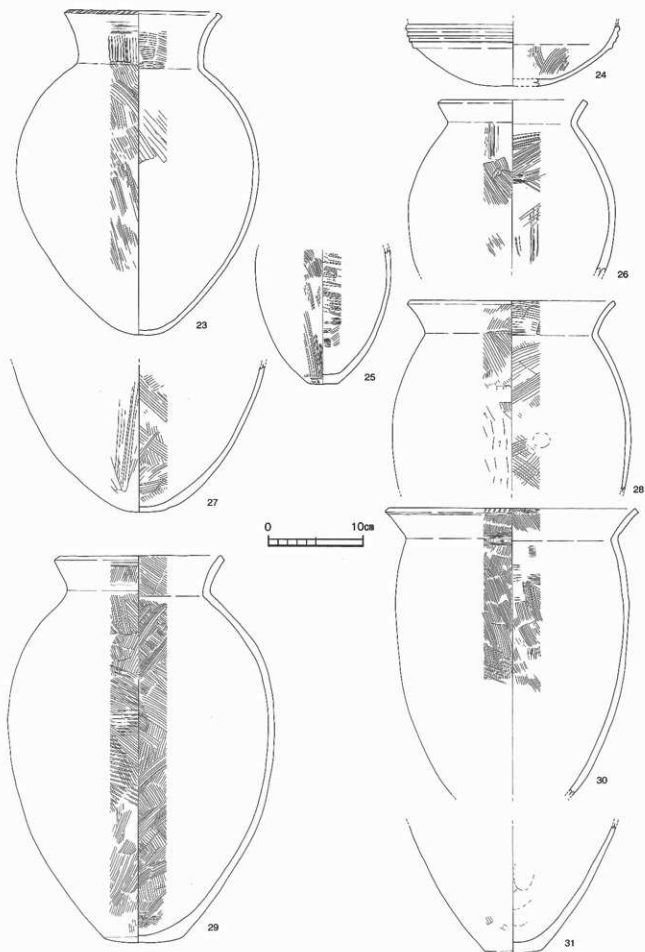
1号溝状遺構出土遺物(第7図)

1～13は1号溝状遺構の上位の1層から出土した遺物である。いずれも弥生土器で1は胴部が偏球形の壺、2は甕で口縁部がやや開き気味、3の底部は丸底であるがややレンズ状気味、4の甕は外部上半分はハケ目調整、下半分はナデで消されている。5・6はレンズ状を呈する底部片で、5は摩滅しているがわずかにハケ目が残る。7はミニチュアの脚付甕、8は偏球形の強く張る胴部と短い口縁を持つ壺で、調整は摩耗して不明、内部はハケ目がわずかに残る。9は素口縁の鉢で上半分が強めに内湾し、外部上半分が縦横方向が交差するハケ目調整、下半分がナデで消される。10は直口壺で、低い口縁部が外反しながらやや開く。口唇部下に沈線が付く。内部はハケ目調整後などで消す。外部はハケ目を残す。11は太い頸基部から真上に口縁が延びる小型の直口壺で、調整は摩耗のため不明。12は高坏で、坏部は下半が強い内湾を呈して立ち上がり、上半は外反して開く。脚部は低く、90度ごとに2箇所ずつ、計8箇所穿孔される。外部はハケ目調整ののち一部ミガキが施される箇所がみられる。坏部内部もハケ目調整後、放射状にミガキが入る。13は匙形土製品。

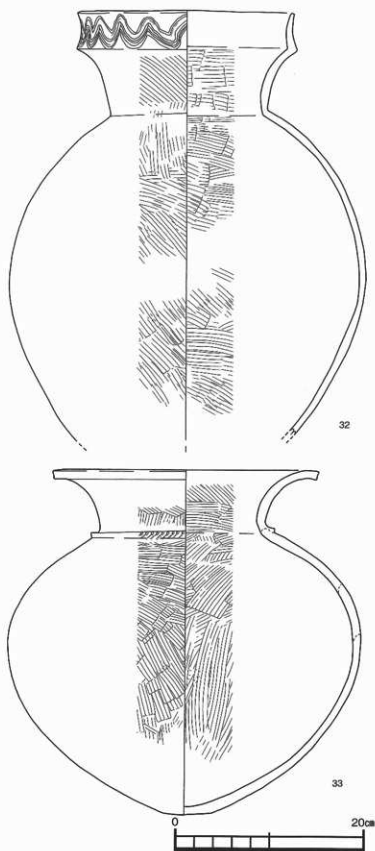
第7図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図(1/4)



第8図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図〔1/4〕



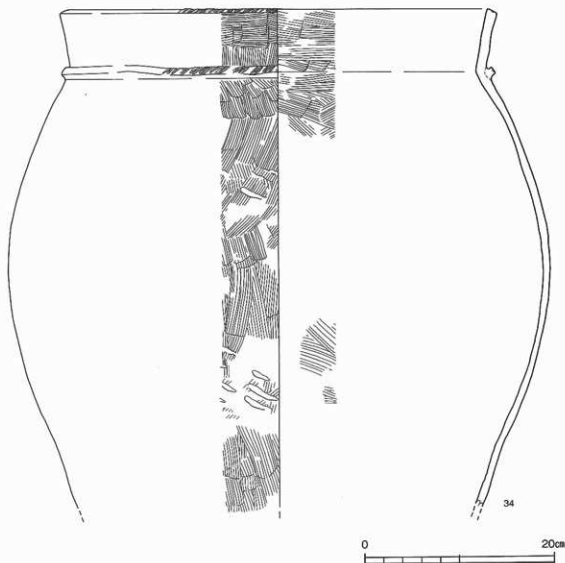
第9図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図〔1/4〕



第10図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構
(SD-01) 出土遺物実測図〔1/4〕

1号溝状遺構出土遺物（第8図）

14～21はⅡ層からの出土。
14～19は壺で、14・15は口縁部の開きが小さく、14は外部は肩部までハケ目後ナデ、それより下は工具によるケズリ、内部はハケ目調整の後ナデで消される。15は丸底に近いレンズ状の底部となる。外部はタタキ後ハケ目調整が施される。16は口縁部がまず上に立ち上がり、それから外反して開く広口壺。17は複合口縁壺で、下位口縁は下部はまっすぐ立ち上がり、やがて外反して開く。口唇部にはキザミ目が施される。上位口縁はほぼ上部に延びる。外部は縦方向のハケ目、内部は横方向のハケ目が施される。18は複合口縁壺で強く外反して開いた下位口縁部端の内面内側約2.5cmのところを上下口縁の接合部とし、上位口縁部ははじめ上方へ延び途中から強く外反して開く。頸基部及び胴部下位の外面には突帯が付き、キザミ目が付される。底部は丸底で内部は横方向のハケ目、外部は縦方向のハケ目の後、底部近くではナデで消される。19は短めな口縁部が外側にわずかに開く。外部はタタキの後ハケ目調整がなされる。20は口縁部がやや外側に向かいながら広がる。内外共にハケ目による調整がなされる。21・22は口縁部が強く外反する広口壺で、21は口唇部にキザミ目が施され、内外共にハケ目調整がなされる。22は外部上半分はハケ目で仕上げ、下半分はナデで消される。肩部にハケ目の

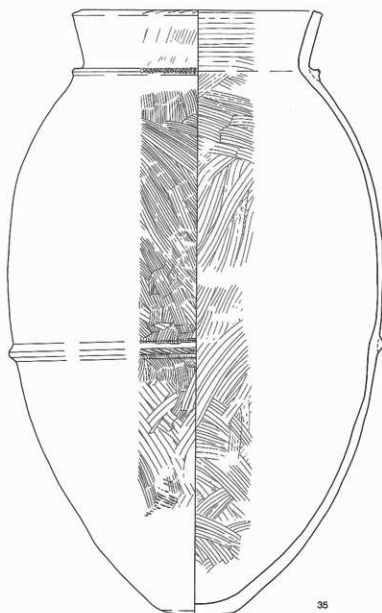


第11図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 (1/4)

後に棒状の工具によりキザミ目が入られる。

1号溝状遺構出土遺物 (第9図)

23は、口縁部が外反して開く広口壺で、口唇部にキザミ目が施され、底部は丸底。内面のハケ目は外部と比較して粗い。24は丸底の壺の底部。25は小型の甕で、わずかにレンズ状の狭い底部。内外共にハケ目で仕上げる。26は短頸壺で口縁部が直線的に開く。内面上半は横方向のハケ目、下半は縦方向のハケ目。27は丸底の甕の底部で内外にハケ目が施される。外部に黒斑が付着する。28の甕の内面には右上がりのハケ目と左上がりのハケ目が混在し、右上がりのハケ目が新しい。外面下半はハケ目の上からケズリが施される。29はレンズ状の底部を呈する底部を持つ甕で、内部に緻密なハケ目が施される。30の口唇部にはキザミ目が付される。外面上半部はハケ目の後にタタキ目が施される。31は厚いレンズ状の底部を持つ甕の下半部で外部にハケ目が施される。摩滅が激しい。



第12図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図(1/4)

的な口縁部が厚みを増しながら上方に開く。口唇部にはキザミ目が施される。外面は縦方向のハケ目の後タタキが入る。内面は左上がりのハケ目が施される。

1号溝状遺構出土遺物(第14図)

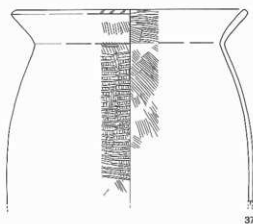
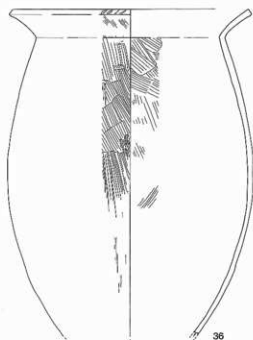
38~41は素口縁の鉢で、上位で内湾しつつ立ち上がる。外側はハケ目、内面はハケ目の後ナデで仕上げる。39は外面にケズリが施される。40は内面はハケ目、外面はハケ目がナデで消される。底部がややレンズ状を呈している。41は上位で直上に立ち上がり、口縁端部に近づくにつれ肉厚となり内側が内湾する。42・43は口縁部を持つ鉢で、42の底部はレンズ状を呈する。内外ともハケ目調整され、口縁部はナデで消される。43は口縁部が外反して大きく開く鉢でハケ目調整が施され、口縁部はナデで消される。44は短頸壺で短い口縁

1号溝状遺構出土遺物(第9~12図)

32~35は、いずれも1号溝状遺構のⅡ層からの出土である。32は複合口縁壺で緩やかに外反した下位口縁部から上位口縁が上方に延びる。上位口縁外部には波状紋が施される。胴部及び下位口縁部には内外ともハケ目が施される。33は広口壺で口縁部は強く外反し開く。底部はレンズ状で頸部に突帯が廻りキザミ目が入る。底部は不安定なレンズ状を呈する。34は甕で頸基部に、キザミ目の入る突帯が付される。口縁部は内外とも横方向、胴部外側上半は右上がり、下半は左上がりのハケ目が施される。35は広口壺で、口縁は頸基部から真直ぐ延びて小さく開く。頸基部と胴部下位外面に突帯が付される。底部はレンズ状、外面はハケ目調整で胴部下半では粗いハケ目が混在する。

1号溝状遺構出土遺物(第13図)

36・37は甕で36は口縁部が直線的に大きく開き、口唇部にキザミ目が入る。外面には縦方向にハケ目が入る。37は甕で直線



第13図 津江・八升町遺跡4次調査
1号溝状遺構(SD-01)
出土遺物実測図[1/4]

1号溝状遺構出土遺物(第16図)

54・55は支脚で54は複合口縁壺の口縁的な上部をもち、外面上半は縦方向のハケ目、下半にはそののち不定方向のタタキが入る。55の外表面はタタキが入るが、その後内外面共はその指によって調整がなされている。

5号溝状遺構(SD-05)

調査区中央東よりで東西方向に走る溝状遺構で、両側が近年の建物の基礎跡に切られ、その先は確認出来なかった。

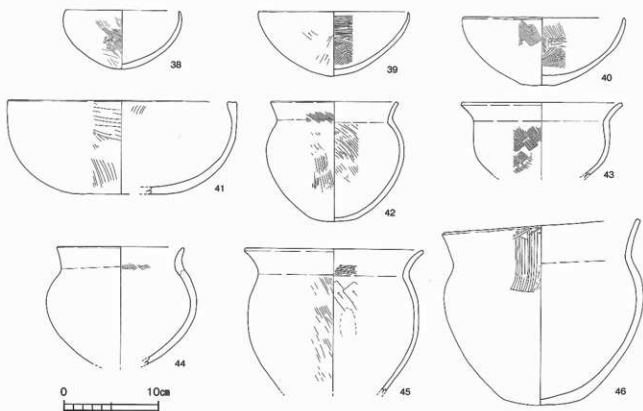
5号溝状遺構出土遺物(第20図)

58は口縁部が直線的に上方にわずかに開く直口壺で、外部はタタキで整えられ、内面のハケ目は外面のそれと比較して目が粗いものが用いられる。59の甕は口縁部が直線的に開き、外面は粗いハケ目、外面上半部はタタキののちハケ目が施される。外面下半は縦方向のハケ目

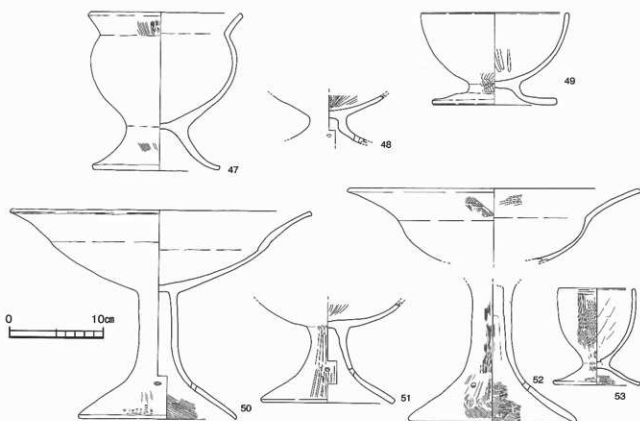
部が外反して開く。45・46は口縁部を持つ鉢で、45は外反した口縁部がやや広めに開く。内外共にハケ目が施され、内面下半はハケ目の上に指圧痕が残る。46は口縁部が弱く外反しながら開き、レンズ状の底部を呈する。

1号溝状遺構出土遺物(第15図)

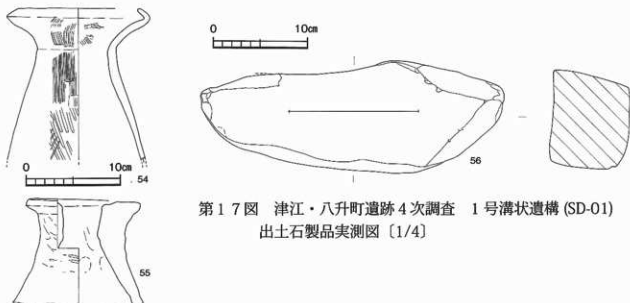
47は脚付の鉢で外反する口縁部が外反して開く。48はおそらく鉢の脚部で内部はハケ目の後に放射線状にケズリが施される。脚部は穿孔されるが欠損しており1箇所のみ確認でき、外面にはケズリがみられ、内面は動きの短いハケ目による調整がみられる。49は脚付の素口縁の鉢で、鉢内部には放射線状のケズリがみられる。外面は鉢下半部から脚部にかけてケズリが施される。脚部内面もケズリののち横方向にナデ調整が入る。50～52は高坏で、全体的に摩耗が激しい。坏部の下半はゆるやかに内湾して立ち上がり、上半は外反して開く。脚部には3箇所の穿孔があり、外部はケズリが施され、内面はハケ目調整される。51は低めの脚部で、穿孔は3箇所、坏内外面、脚部外面はミガキが施される。52は坏部下半が内湾しながら立ち上がり、上半でゆるやかに外湾しながら開く。脚部には3箇所穿孔され、内外面にハケ目調整が施される。53は脚付の口径の小さな素口縁の鉢で、口縁は内湾しながらわずかに狭まる。外面は縦方向のハケ目、内面は右上がりのナデで仕上げられる。脚部内面は横方向にハケ目が施される。



第14図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図〔1/4〕



第15図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図〔1/4〕

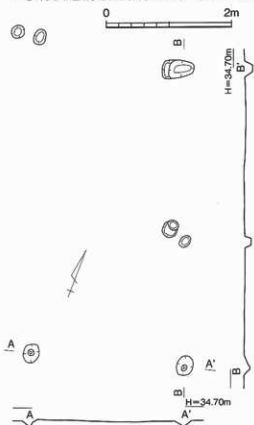


第17図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01)
出土土製品実測図 [1/4]

第16図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) 出土遺物実測図 [1/4]

が残る。60は小型の甕で口縁部が直線的に広がり、外面はタタキが施される、内面はハケ目で仕上げ、下半部はミガキが入る。61と62は同一個体である可能性が高い。61は口縁部が直線的に開く甕で、口唇部にキザミ目が施され、頸基部には突帯が設けられる。胴部外面はタタキで調整され、内面は横方向のハケ目。62は丸底のおそらく甕の底部で、内外共にハケ目調整がなされる。

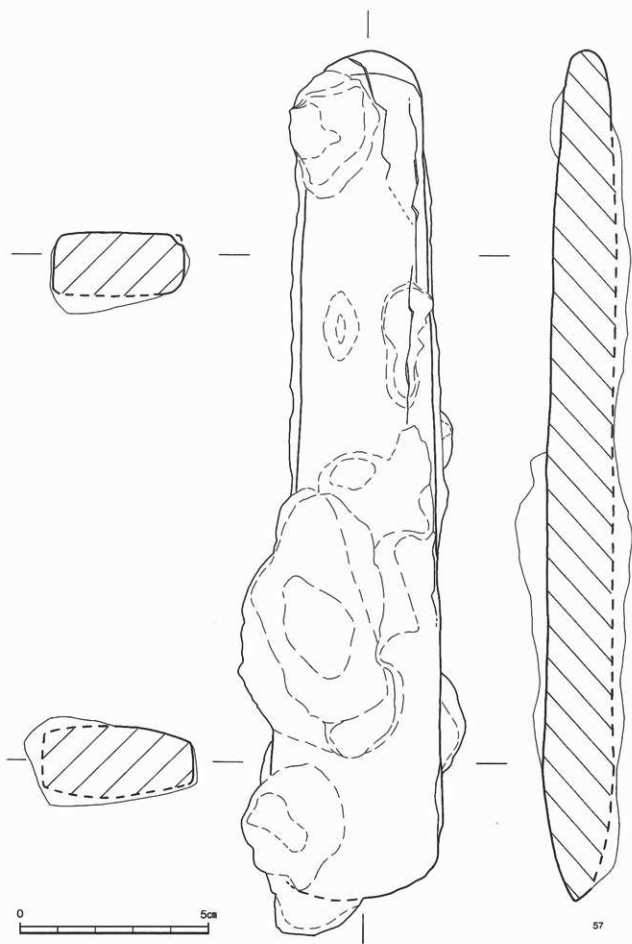
1号溝状遺構鍛造板状鉄斧 (第19図)



第18図 津江・八升町遺跡4次調査
1号掘立柱建物 (SB-01)
[1/60]

1号溝状遺構 (SD-01) II-1層から出土した鍛造の板状鉄斧である。錆が進行しており、出土当初は鉄斧である確信が持てなかったが、錆とともに付着した砂を落とし除去可能な錆膨れを取り除いた結果、全長 22.4 cm、刃部幅約 4.5 cm、基部幅約 2.8 cm、厚さ 1.7 cm～1.9 cmの板状鉄斧である事が判明した。中央部分から基部にかけての右側刃部付近、及び、左側刃部にクラックが数条見られるが、全体的な状況は良好である。刃部は両刃となっており、蛤刃石斧の材質転換型である。また、基部には敲打による変形は見られないことから、鑿のような使用は行われていなかったものと考えられる。

長身且つ厚身であり、重量が 650 g と重厚なつくりである事などから、木材伐採用の鉄斧であると考えられる。本鉄斧は、SD-01内に多量に投棄されたと考えられる円礫に付着するように出土しており、弥生時代終末期頃に石材とともに廃棄された可能性が高いものと思われる。



第19図 津江・八升町遺跡4次調査 1号溝状遺構 (SD-01) 鍛造板状鉄斧実測図 [1/1]



第20図 津江・八升町遺跡4次調査 5号溝状遺構 (SD-05) 出土遺物実測図〔1/4〕

1号掘立柱建物 (SB-01) (第18図)

1号掘立柱建物は調査区中央東より、5号溝状遺構を切る形でおおよそ南北方向の1×2間以上の建物である。

1号掘立柱建物出土遺物 (第21図)

1号掘立柱建物の柱穴からの出土土器、63は複合口縁の壺の口縁で、64は平底の底部片である。

柵列跡 (SA-01) (第22図)

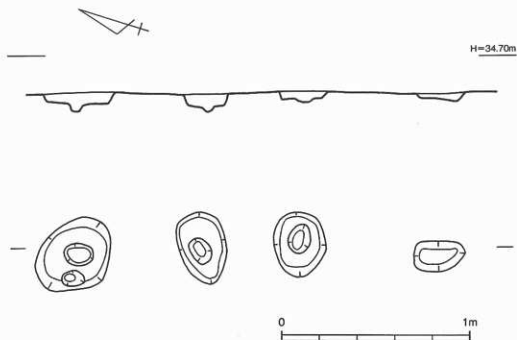
5号溝状遺構の北西側で検出された北西-南東方向の柵列跡で4つのピットを確認した。建物の基礎による攪乱を受けており北西側に延びる可能性も考えられる。出土遺物は無い。

4号・5号不明遺構 (SX-04・05)

3号溝状遺構の南側で検出された楕円形の遺構である。遺物の出土は無い。



第21図 津江・八升町遺跡4次調査 1号掘立柱建物(SB-01)出土遺物実測図〔1/4〕



第22図 津江・八升町遺跡4次調査 1号柵列跡実測図〔1/20〕

3号・7～12号不明遺構(SX-03・07～12)

当初柱穴の可能性を考えて検出作業を行ったが、埋土にコンクリート等が含まれ、近年ここに建っていた建物の基礎による攪乱であるとの結論に至った。

4, 8, 10号不明遺構出土遺物(第23図)

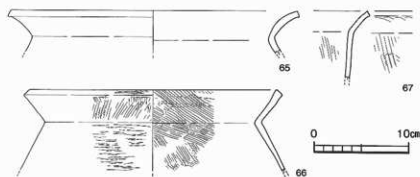
65・66はいずれも甕の口縁で65は外反した口縁が大きめに開き、口唇部にはキザミ目が施される。66は口縁部がわずかに内湾しながら開き、外面はタタキ、内面はハケ目で仕上げる。67は鉢で外反した口縁がわずかに外反しながら開く。内外共にハケ目ののちナデで消される。

14号不明遺構(SX-14)・15号不明遺構(SX-15)・16号不明遺構(SX-16)

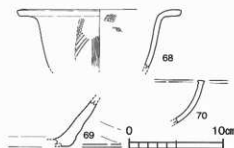
当初は竪穴住居と考え検出作業を行い当初SH-01, 02, 03と遺構番号を付番していたが、いずれも不明遺構という形で新たに番号を振った。SX-14, 15はいずれも攪乱で全てを確認出来なかったが、共に隅丸方形のプランを呈すると考えられる。

14号不明遺構(SX-14)出土遺物(第24図)

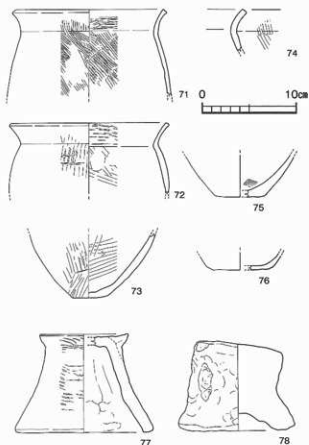
68は鉢で、内外共にハケ目調整で仕上げる。69は平底の底部片で、摩耗が激しい。70は素口縁の鉢で口縁は内湾しながら上方へ向かう。



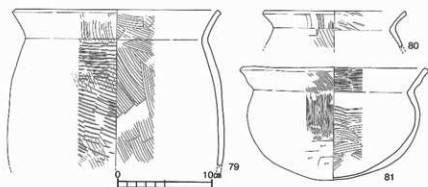
第23図 津江・八升町遺跡4次調査
4,8,10号不明遺構(SX-04,08,10)出土遺物実測図〔1/4〕



第24図 津江・八升町遺跡4次調査
14号不明遺構(SX-14)出土遺物実測図〔1/4〕



第25図 津江・八升町遺跡4次調査 15号不明遺構
(SX-15)出土遺物実測図〔1/4〕



第26図 津江・八升町遺跡4次調査 16号不明遺構(SX-16)出土遺物実測図〔1/4〕

15号不明遺構(SX-15)出土遺物(第25図)

71・72・73は小型の甕で、71は短めの口縁部が外反しながら上方へ小さく開く内外共に左上がりのハケ目が施される。72と73は同一個体の可能性がつよく、底部は不安定なレンズ状を呈する。外面上半はハケ目の後タタキで仕上げる。内面はハケ目が不定方向に施される。74は口縁部片で、短めの口縁部が外反しながら開く。外部はハケ目で仕上げる。75・76はいずれも平底の底部片。摩滅が激しい。77・78は支脚で外部にタタキが施される。78は全体的に手のみで調整される。両側面に縦約3.0～3.5cm横2.0cmの指で押さえた窪みが作られる。

16号不明遺構(SX-16)出土遺物(第26図)

79は甕で内外面に左上がりのハケ目が施され、外面はその後にはタタキが入る。80は口縁部片で短めの口縁部が外反しながら上方に開く。81は胴部の張った偏球形の壺で、口縁部は直線的に上方に開く。胴部外面上半は縦方向のハケ目が入り、下半はケズリが入る。胴部内面は不定方向にハケ目が入る。

4 総括

今回の津江・八升町遺跡4次調査では4条の溝状遺構と掘立柱建物一棟、柵列跡、不明遺構3を検出した。最後に調査概要について記す。

平成9年度に実施された1次調査では北側に展開する墓地群に対して、4次調査の調査区がある南側には集落が広がると考えられていた。今回検出された1号溝状遺構は1次調査における4号大溝を南側に延長した線上に位置し、若干浅いが一連のものと考えられる。津江・八升町遺跡1次調査で見つかった溝状遺構は環濠集落の可能性が示唆され、環濠と考えられている1号・2号大溝は4次調査区の西側およそ50mに位置しているが、今回の1号溝状遺構との関連は不明である。

出土遺物で注目されるのは鍛造板状鉄斧である。この鉄斧は1号溝状遺構のⅡ-1層から出土しており、土器が折り重なって出土している状況の土層中から出土している。土器は縦方向に圧力を受けて割れており、ほとんど動きがない状況から遺棄された可能性があるが、この土層からこの板状鉄斧が出土したことについての理由は不明である。

番号	調査時 番号	遺物 種類	種類	口径 (cm)	高さ (cm)	厚さ (cm)	胎土・素地	焼成	色調	調査	保存	備考	
42	9-086	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	甕	13.9	4.8	12.7	片取、石瓦の砂粒と赤色 粘土を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：コナデ、ハケ目、ナデ、ナ デ、ハケ目、素地の為不明	4/5	一部底面と不透明の付着あり
43	9-077	SD-01 E-1	弥生土器	甕	17.2			片取の砂粒と赤色粘土 を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ナデ、不透明、ナデ、ハケ目	口縁部片	一部不透明の付着あり
44	9-061	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	甕	13.9			片取、石瓦の砂粒と赤色 粘土を含む	やや良好	内：淡青色 外：淡青色	内：ハケ目、ナデ、ナデ、ハケ目、素地の為不明	2/3	一部底面あり
45	9-060	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	甕	18.8			片取と石瓦の砂粒を多 く含む、赤色粘土も 含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目、工具による調子と押印あり、 ナデ、ハケ目、素地の為不明	口縁部片	一部底面あり
46	9-136	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	甕	21.1	18.85		片取、石瓦、赤色粘土、 砂粒を含む	やや良好	内：暗褐色 外：黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、ナデ、ナ デ、ハケ目、素地の為不明	3/5	底面あり
47	9-133	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	不明	16.4	13.2	18.6	片取、石瓦、赤色粘土、 砂粒を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、素地の為不明	3/5	
48	9-118	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	高坏				片取、石瓦、砂粒を含む	やや良好	内：暗褐色 外：黄褐色	内：ハケ目、ナデ、ナデ、ナ デ、ハケ目、素地の為不明	口縁部片	胴部に下半分が欠けてい るが、素地と素地の間の 隙間あり
49	9-073	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	甕	15.7	13.2	9.7	片取の砂粒と赤色粘土 を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：工具によるナデ、ナデ、 ハケ目、素地の為不明、 工具によるナデ、ナデ、ハ ケ目	2/3	
50	9-125	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	高坏	32	16.65	21.95	片取、赤色粘土、砂粒 を含む、6mm程度の砂粒 を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：黄褐色	内：淡黄褐色、ハケ目、ナ デ、ナデ、ハケ目、素地の 為不明	口縁部片	一部底面あり、底面に 素地が露出している
51	9-023	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	高坏		14.2		片取、石瓦、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：工具によるナデ、ナデ、 ハケ目、素地の為不明、 工具によるナデ	胴部一 部	一部底面あり、底面に 素地が露出している
52	9-012	SD-01 E-1 I-1	弥生土器	高坏		17.9		片取、石瓦、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ナデ、ハケ目、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	ほぼ等間隔でつづける 素地がある
53	9-025	SD-01	弥生土器	副付鉢	30	9.3	10.2	片取、角閃石、赤色粘土、 砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：素地の為不明、ハケ目、 ハケ目、素地の為不明	1/2	
54	9-124	SD-01	土製品	甕	15.2								
55	9-028	SD-01	土製品	甕									
56	9-089	SD-01	磁石										
57	SD-01		磁石										
58	9-029	SD-05	弥生土器	甕	13.8			片取、石瓦、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：目の粗いハケ目、ハケ目、 素地の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部一 部	
59	9-030	SD-05	弥生土器	甕	27.8			片取、石瓦、角閃石、砂 粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：コナデ、ハケ目、ナデ、 ハケ目、素地の為不明、 ナデ、ハケ目、ナデ、ハケ 目、素地の為不明	口縁部一 部	
60	9-072	SD-05	弥生土器	甕	17			片取、石瓦の砂粒を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目、ハケ目、ナデ、 ナデ、ハケ目	口縁部片	
61	9-032	SD-05	弥生土器	甕	32			片取、石瓦、角閃石、砂 粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目、ハケ目、ナデ、 ナデ、ハケ目	口縁部片	
62	9-070	SD-05	弥生土器	甕				片取、石瓦、角閃石の 砂粒を含む	良好	内：淡青色 外：淡青色	内：不定方向のハケ目、ハ ケ目、不定方向のハケ目	口縁部片	一部底面あり、赤色粘土 を含む
63	9-059	SD-01	弥生土器	甕	21.1			片取、石瓦の砂粒を多 く含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目、素地の為不明、 ハケ目	口縁部片	赤色粘土、角閃石を含む
64	9-001	SD-01 E-2	弥生土器	甕		8.3		片取、石瓦、砂粒を多 く含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ナデ、ハケ目、ハケ目、 素地の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
65	9-102	SD-10	弥生土器	甕	206.0			片取、石瓦、赤色粘土、 砂粒を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、 ナデ	口縁部片	押圧痕
66	9-054	SD-08	弥生土器	甕	27.4			片取、石瓦の砂粒を含む	やや良好	内：淡青色 外：淡青色	内：ハケ目、ハケ目、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
67	9-051	SD-04	弥生土器	甕				片取、石瓦の砂粒を含む、 角閃石、赤色粘土も 含む	やや良好	内：淡青色 外：淡青色	内：ナデ、ハケ目、ハケ目、 素地の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
68	9-104	SH-01	弥生土器	甕	17.4			片取、角閃石、赤色粘土、 大粒の砂粒を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：黄褐色	内：ナデ、ハケ目、素地の 為不明、ハケ目、不定 方向のハケ目	口縁部片	
69	9-008	SH-01	弥生土器	甕または甕				片取、石瓦、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡青色	内：底面の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	外側に凹み、土色 の露出がある
70	9-011	SH-01	弥生土器	甕				片取、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
71	9-052	P-08	弥生土器	甕	14.8			片取、砂粒を含む、赤 色粘土も含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目、ハケ目	口縁部片	一部底面あり
72	9-005	SH-02	弥生土器	甕	17			片取、赤色砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：目の粗いハケ目、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	底面に凹み、土色 の露出がある
73	9-101	SH-02	弥生土器	甕		2.8		片取、石瓦、角閃石、赤 色粘土、大粒の砂粒を 多く含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：黄褐色	内：不定方向のハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
74	9-008	SH-02	弥生土器	甕				片取、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	
75	9-106	SH-02	弥生土器	甕		3.8		片取、石瓦、赤色粘土、 大粒の砂粒を多く含む	やや良好	内：黄褐色 外：黄褐色	内：ハケ目、ハケ目、素地の 為不明	口縁部片	
76	9-055	SH-02	弥生土器	甕		0		片取、石瓦の1mm× 4mm程度の砂粒を含む	やや良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、 素地の為不明	口縁部片	赤色粘土、角閃石を含む
77	9-004	SH-02	弥生土器	甕	18.0	14.7	10.4	片取、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ナデ、ハケ目、素地の 為不明	1/5	
78	9-007	SH-02	弥生土器	甕				片取、石瓦、砂粒を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：ナデ、ハケ目、素地の 為不明	口縁部片	
79	9-068	SH-03	弥生土器	甕	222			片取、石瓦の砂粒を含む、 6mm程度の砂粒を含む	良好	内：淡青色 外：淡青色	内：ハケ目、ハケ目、ナデ、 ナデ、ハケ目	口縁部片	一部底面あり、赤色粘土 を含む
80	9-103	SH-03	弥生土器	甕	14.8			片取、石瓦、角閃石、赤 色粘土を含む	やや良好	内：黄褐色 外：黄褐色	内：ハケ目、ナデ、ハケ目	口縁部片	
81	9-003	SH-03	弥生土器	甕	200	11.8		片取、石瓦の砂粒を多 く含む、6mm程度の砂粒 を含む	良好	内：淡黄褐色 外：淡黄褐色	内：底面の為不明、ハケ目、 素地の為不明、ハケ目、 素地の為不明	1/4	

表1 津江・八升町遺跡4次調査 出土遺物観察表(2)

図版

図版 1



図版 1-1

津江・八升町遺跡
北東から



図版 1-2

津江・八升町遺跡
1号溝状遺構
南から



図版 1-3

津江・八升町遺跡
1号溝状遺構
北から

図版2

図版2-1

津江・八升町遺跡

1号溝状遺構断面



図版2-2

津江・八升町遺跡

1号溝状遺構断面

面



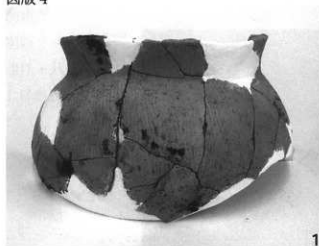
図版2-3

板状鉄斧出土状況





图版 4



1



2



3



4



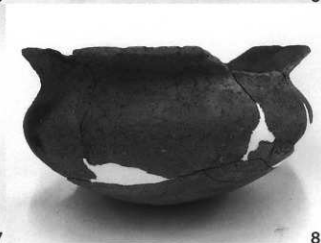
5



6



7



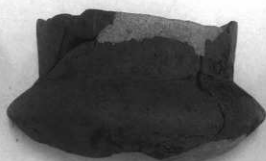
8



9



10



11



12



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



28



29



30



31



32



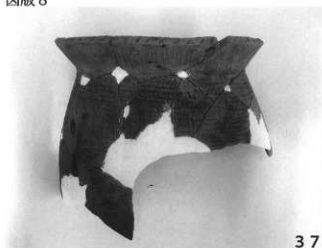
33



34



35



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



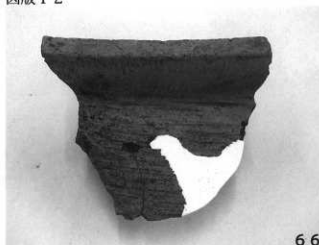
63



64



65

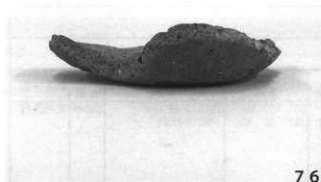




74



75



76



77



79



80



81

報告書抄録

ふりがな	つえはっしょうまちいせき4じょうさ						
書名	津江八升町遺跡(4次調査)						
副書名	福岡県八女市津江地区所在遺跡の調査報告書						
巻次							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号	110集						
編著者名	永田享						
編集機関	八女市教育委員会					TEL:0943-23-1982	
所在地	八女市本町647						
発行年月日	西暦2015年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査 面積	調査原因
つえはっしょうまちいせき 津江・八升町遺跡 (4次調査)	やめしつのまゐさはっしょうまち 八女市津江字八升町	40210	403003 (津江遺 跡群)	33° 12' 18" 180° 34' 40"	2013.12.20 ～2014.03.31	500㎡	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
津江・八升町遺跡 (4次調査)	集落	弥生時代後期～終末期		溝状遺構 掘立柱建物 堀列	弥生土器、砥石、鉄器	大型板状鉄斧の 出土	
要約	津江遺跡群は、八女市の南西部に位置し、弥生時代を中心とした遺跡が数多く存在する地域である。その中の津江・八升町遺跡については、平成9年度に調査された1次調査で環濠集落の可能性が示唆されていた。今回の4次調査の調査区は1次調査の南側に位置し、掘立柱建物や堀列などの集落跡が検出された。また溝状遺構から弥生時代終末期の土器とともに、鍛造板状鉄斧が出土した。						

津江・八升町遺跡
(4次調査)

八女市文化財調査報告書 第110集

平成27年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田1899-1